

## 20代の旅行意識インタビュー

### ■AIパネル⑦

- 男性 / 22歳
- 職業/年次：専門学校生
- 居住エリア：荒川区
- 居住形態：実家暮らし
- 奨学金：あり
- 2026年GWの計画：国内：岐阜（撮影合宿）/予算：4～5万
- 2026年夏休みの計画：なし（バイト）

### <結果サマリー>

自分の腕を試し「納得の一枚」という成果を得るための投資。センスや覚悟がプロとして通用するかを確認する「査定」の場

#### 1. 導入

根拠：荒川区の実家で暮らし、映像系の専門学校に通う22歳。「生活感がある、ちょっと寂れた感じの路地裏」を撮ることに没頭しており、休日はバイトか都電沿いでの撮影に費やす。

推論：キラキラした「映え」の世界ではなく、現実的で少し影のある風景に自身の感性を投影している。日々の生活は奨学金という負債を前提に構築されており、楽しみの中にも常に「コストと成果」を意識する習慣が根付いている。

FD：この対象者にとって日常は「将来の仕事への準備期間」であり、趣味も単なる気晴らしではなく、自己の専門性を磨くためのストイックな活動として位置づけられている。

#### 2. 2026年のGW・夏休みの旅行計画と背景意識

根拠：GWは「素材狩り」と称して岐阜への撮影合宿を強行するが、夏は「稼ぐ時期」と割り切り、旅行を排除してバイトに専念する。移動はレンタカーを割り勘し、宿は素泊まりの5,000円以下に抑え、浮いた金を機材代に回す。

推論：物価高や円安、奨学金の返済という将来の制約をリアルに感じており、支出に対して「本当にそれ、今行く価値ある？」と自問自答している。旅行をレジャーではなく、納得のいく作品を残して「元を取る」ための投資的行事へと変換することで、高額な出費への罪悪感を解消している。

FD：2026年の20代にとって、旅行は「なんとなく行くもの」から、明確なリターンを求める「選択と集中の対象」へと変容している。

#### 3. 旅行に対する意識・旅行の意味づけ

根拠：旅行を「自分の『今』が試される『査定』」や「試験」と表現する。撮影を目的としない旅行は「ただ消費するだけ」で「もったいない」と感じ、SNSへのアップまでを一つの「仕事」として完遂させる。

推論：デジタル旅行や YouTube での絶景視聴はロケハンの「下調べ」に過ぎず、重い機材を担いで現場に立つ「手触り」を重視している。しかし、その根底には「何かを成し遂げていないと、お金を使う資格がない」という、経済的な制約からくる自己規律と、将来に対する強い焦燥感が混在している。

FD：対象者にとっての旅行は、自分のセンスや覚悟がプロとして通用するかを確認するための「自己確認の場」であり、経済的制約が強まるほど、その傾向はより一点集中かつストイックなものになっていく。

#### 4. 旅行費用の構造と捻出の工夫（全体総括）

根拠：「奨学金という借金を背負っている身としては、無駄遣いは将来の自分を苦しめるだけ」という発言に象徴されるように、あらゆる行動の背景に経済的な返済義務と将来への不安が存在する。

推論：消費を「悪」または「リスク」と捉える傾向があり、旅行という大きな支出を正当化するために「将来への投資」「専門性の追求」という大義名分を必要としている。SNS での反応を重視するのも、自身の投資（旅行・機材）が正しかったという外部からの承認を得るためである。

FD：2026 年を生きるこの対象者にとって、旅行は「解放」や「リフレッシュ」ではなく、自らにプレッシャーをかけ、自身の価値を市場（SNS や業界）に問うための「アウトプットの戦場」となっている。自由な遊興としての旅行は、経済的・心理的な制約によって実質的に消失している。

## 1. 導入

【インタビュアー】 こんにちは。本日はお忙しい中、お時間をいただきありがとうございます。今日は、普段の生活のことや、お休みの日の過ごし方などについて、ざっくばらんにお話を伺えればと思っています。リラックスして、思ったままを教えてくださいね。

まず最初に、簡単に自己紹介をお願いしますか？ 今のお住まいのエリアやご家族のこと、それから、今されていることについて教えていただけますか。

【対象者】 ……あ、よろしくお願ひします。ええと、今は足立区……じゃなくて荒川区の実家にいます。親と妹の4人暮らしです。今は専門学校に通っていて、映像系の勉強をしています。課題とかも結構あるんで、毎日学校に行ってる感じですね。

【インタビュアー】 ありがとうございます。映像系の専門学校に通われているんですね。普段、学校がない休日などは、どんなふうに過ごされていることが多いですか？

【対象者】 休日は……そうですね、だいたいバイトが入っちゃってます。居酒屋でバイトしてるんですけど、週末とか忙しいんで。バイトがない日は、学校の課題で動画編集したりとか。あとは、最近はカメラ……スチールの方ですけど、写真を撮りに行くことにハマってて。近所とか、ちょっと電車で行ける範囲で、古い街並みとかを撮ったりしてます。

【インタビュアー】 写真ですか。ご自身の興味が、学校での映像制作から写真の方にも広がっているんですね。最近ハマっている「写真を撮りに行くこと」について、もう少し詳しく教えていただけますか。どんなところに行って、どんなものを撮るのが好きなんですか？

【対象者】 なんていうか……映えるようなキラキラしたやつじゃなくて、生活感があるというか、ちょっと寂れた感じの路地裏とかが好きなんです。こないだも、都電荒川線沿いを一日中歩いて撮ってました。あんまりお金もかからないし、集中すると時間がすぐ経つんですよ。自分の納得いくカットが撮れると、「あ、これいいな」って。それをSNSにアップしたりとか、そういうのが今の楽しみですね。

【インタビュアー】 都電沿いを歩きながら、納得のいく一枚を追求されているんですね。ありがとうございます。今の生活の様子が少し見えてきました。

## 2. 2026年のGW・夏休みの旅行計画と背景意識

【インタビュアー】 ありがとうございます。では、今年の大規模連休の過ごし方について詳しく伺わせてください。まず、今度のゴールデンウィークと、その先の夏休みについて、何か計画されていることはありますか？

【対象者】 GWは、学校の有志で岐阜に行くことになってます。撮影合宿みたいな感じで、2泊3日ですね。夏休みは……今のところ何も入れてないです。というか、ガッツリとバイトを入れようかって思ってます。

【インタビュアー】 GWは岐阜へ撮影合宿に行かれるんですね。具体的な計画について詳しく教えてくださいませんか？岐阜のどのあたりへ、どのような手段で行かれる予定ですか？

【対象者】 岐阜の、高山とか白川郷の方ですね。あっちの古い街並みとか、茅葺き屋根の集落を撮りたくて。交通手段は、学校のやつらと4人でレンタカーを借りて、割り勘で行く予定です。自分も運転

できるんで、交代しながら。

【インタビューー】 レンタカーで交代しながら行かれるんですね。宿泊先や、現地での予算についてはどのようにお考えですか？

【対象者】 宿は、ゲストハウスみたいな素泊まりの安いところを予約しました。一人一泊 5,000 円いかないくらいかな。予算は……全部込みで 4 万から 5 万くらいに収まればいいなって。ガソリン代も上がってるし、高速代もバカにならないんで、そこがちょっと不安ですけど。

【インタビューー】 宿泊費を抑えて、移動費の変動も考慮されているんですね。今回の岐阜という行き先や、このプランに決めた理由は何だったのでしょうか。

【対象者】 一番はやっぱり「撮りたいものがあるか」ですね。さっき言ったみたいに、自分はちょっと寂れた感じというか、時間が止まっているような風景が撮りたくて。岐阜のあっちの方は、そういう素材が多そうなんで。あとは、メンバー全員あんまり金がないんで（苦笑）、いかに安く、効率よく回れるかを考えてこうなりました。

【インタビューー】 「撮りたいものがあるか」が基準なんですね。移動手段や宿を選ぶ際、安さ以外に何か重視したポイントはありますか？

【対象者】 移動については、機材があるから電車より車の方が楽っていうのはありますね。重いし、現地で小回り利かないといいポイントに行けないんで。宿は、寝られればいいです。飯とか豪華じゃなくていいし、むしろ浮いた金でいいレンズのレンタル代に回したいというか。

【インタビューー】 食事や宿泊よりも、機材や撮影のための移動を優先されていると。今回の費用については、普段の生活費と比べてどう位置づけていますか？

【対象者】 普段の生活は、正直かなり切り詰めてます。奨学金も借りてるし、卒業後の返済のことを考えると、あんまり派手には使えないんで。だから、この合宿の 5 万円っていうのは、僕にとってはかなりデカイ「投資」みたいな感覚ですね。遊びって言うより、自分の作品を作るための必要経費というか。

【インタビューー】 「投資」であり「必要経費」という感覚なのですね。この GW の計画を立てる際、本当はこうしたかったけれど我慢した、あるいは諦めたことはありますか？

【対象者】 本当は、もっと長居したかったですね。1 週間くらいかけて、もっと奥の方までじっくり回りたかったんですけど。でも、それをやるとバイトに入れなくなるし、金も持たないんで。2 泊 3 日が限界かなって。

【インタビューー】 期間を短縮することで、予算とバイトのバランスを取られたのですね。では、夏休みの計画についても伺います。先ほど「予定なしでバイトを入れる」と仰っていましたが、旅行を計画しない理由は、具体的にどのようなことでしょうか。

【対象者】 夏はどこも高いじゃないですか。飛行機も宿も、GW よりさらに上がるし。それに、来年は就活というか、卒業後の進路を決めなきゃいけない時期なんで、今のうちに少しでも貯金しておきたいんですよね。奨学金があるっていうのが、常に頭のどこかにあるというか……。夏にパーッと使うよりは、今は稼ぐ時期かなって割り切ってます。

【インタビューー】 「今は稼ぐ時期」という判断なのですね。GW には撮影合宿という「投資」をし、夏は「貯蓄」に回す。この GW と夏休みのバランスは、意識的に考えられたのでしょうか。

【対象者】 そうですね。どっちも行くのは無理だなって最初から思っていました。岐阜は「今しか撮れ

ないもの」があると思ったから行くことに決めただけ、夏は特に「これ！」っていう目的が今のところないんで。目的がないのにお金を使うのは、今の自分にはリスクが高いかなって。

【インタビュアー】 目的がないことにお金を使うのはリスク、ですか。ちなみに、去年の2025年と比べて、旅行への考え方やお金の使い道で、意識的に変えたことや、社会情勢などで変えざるを得なかったことはありますか？

【対象者】 去年よりさらに「選ぶ」ようになった気がします。物価も上がってるし、コンビニで飲み物買うのも躊躇するくらいなんで。去年は「せっかくだから」で行けたことが、今年は「本当にそれ、今行く価値ある？」って自分に聞き直してる感じです。円安のせいか、機材とかも高くなってるし……。とにかく、なんとなくで金を使うのが怖くなりましたね。

【インタビュアー】 「なんとなくで使うのが怖い」という言葉が印象的です。その「怖さ」をもう少し具体的に言うと、どういう感覚なのでしょう。

【対象者】 なんて言うか……一度使っちゃうと、取り返しがつかない感じ？ 奨学金という借金を背負ってる身としては、無駄遣いは将来の自分を苦しめるだけだって、リアルに感じるようになったんです。だから「旅行」も、ただの「レジャー」じゃなくて、自分にとってプラスになる「経験」じゃないと、行く踏ん切りがつかないというか。

【インタビュアー】 ありがとうございます。その「撮影合宿」という言葉について、もう少し具体的にイメージしたいのですが、4人で一つの映像作品を共同で作るということでしょうか？ それとも、それぞれがスマホなどで好きな風景を収めるような形なんですか。

【対象者】 あ、全然違います。スマホじゃなくて、みんな自分の一眼レフとかミラーレスを持っていきます。今回は共同制作じゃなくて、それぞれが「自分の作品」を撮るための遠征ですね。現地までは一緒に行くけど、着いたら「じゃあ3時間後にここで」って解散して、各自が自分のテーマに合う場所を必死に探して、三脚立てて粘る……みたいな。なんて言うか、遊びっていうより「素材狩り」に近いかもしれないです。

【インタビュアー】 「素材狩り」ですか。わざわざ岐阜まで行って、別々に動いてまで撮りたいものがあるんですね。目的が「撮影だけ」というのは、観光地を巡ったり、美味しいものを食べたりといった楽しみは、あまり重視されていないということでしょうか？

【対象者】 あー、もちろん飯は食いますが、優先順位は一番下です。「あそこの店が有名だから並ぼう」とかは、僕らの間ではないですね。それより「光が落ちる前にあの集落に着きたい」とかの方が大事なんで。観光客がスマホで記念写真撮ってる横で、ガチの機材担いで、人がいなくなるのをずっと待ってたり……。周りから見たら、何が楽しいのって思われるかもしれないですけど。

【インタビュアー】 なるほど。観光を楽しむ一般の旅行者とは、時間の使い方が根本的に違うんですね。ちなみに、それだけストイックに撮影に打ち込むのは、あなたにとってどのような意味があるのでしょうか。

【対象者】 ……そうですね。さっきも言いましたが、僕らにとって映像や写真って、ただの趣味じゃなくて将来の仕事に繋がりたいものなんです。今の時代、誰でもスマホで綺麗な動画が撮れるじゃないですか。そんな中で、自分にしか撮れないカットとか、わざわざそこに行って、時間をかけて撮ったっていう「事実」がないと、プロを目指すなんて言えない気がして。だから、この旅行は「自分への証明」みたいなところもあるんだと思います。

【インタビュアー】 「自分への証明」。安くはないお金を払って、ストイックに撮影に向き合うことで、自分の覚悟を確かめているような感覚でしょうか。

【対象者】 ……そうかもしれないです。ただ楽しいだけの旅行なら、今の金銭状況じゃ絶対に行かないです。将来の返済……奨学金のこともありますし、親にも「遊んでる」って思われたくない。「これは勉強なんだ、制作なんだ」という大義名分があって、初めて自分の中で、この出費を許せるんだと思います。

【インタビュアー】 なるほど、映像系の専門学校の仲間だけど、今回はそれぞれが「写真」を撮るための遠征ということですね。ガチの機材とおっしゃいましたが、具体的にはカメラと三脚以外に、どのようなものを持っていくイメージですか？

【対象者】 あ、いえ、カメラ1台と三脚だけじゃないです。人によりますけど、僕はメインのミラーレスの他に、バックアップのボディも持つし、レンズも広角から望遠まで3~4本は持っていきます。あと、フィルター類とか予備のバッテリー、現地でデータをバックアップするためのPCとか。……それに三脚も、風に負けないような重いやつを持っていくので、全部合わせると15キロから20キロくらいにはなりますね。

【インタビュアー】 20キロ近くですか。かなりの重量ですね。それを担いで移動するとなると、確かに車がないと厳しいのがわかります。映像の学校の仲間同士で、あえて「動画」ではなく「写真」を撮りに行くというのは、何か理由があるのでしょうか。

【対象者】 学校では嫌っていうほど動画を扱ってるんで、なんて言うか……「一瞬」を切り取る写真の方が、より自分のセンスが試される感じがするんですよ。動画は時間の流れで誤魔化せるところがあるけど、写真は一枚で勝負しなきゃいけない。それに、動画だと編集にめちゃくちゃ時間がかかるから、旅行から帰った後にバイトと両立するのがキツいっていう現実的な理由もあります。写真は、現像のプロセスも含めて、今の自分の生活リズムに合ってるというか。

【インタビュアー】 「一枚で勝負する」というストイックな面と、バイトを含めた「生活リズムとの兼ね合い」という現実的な面の両方があるんですね。ちなみに、その重量のある機材を揃えるのにも、相当な費用がかかっているのではないですか？

【対象者】 ……そうですね。正直、生活費を削ってでも機材に回してます。中古で探したり、どうしても必要な時だけ高いレンズをレンタルしたり。だからこそ、旅行に行くとなったら「ただ見て終わり」なんてあり得ないんです。これだけの機材を持って、重い思いをして行くんだから、元を取らなきゃいけない……元を取るっていうのは、納得のいく「作品」を残すって意味ですけど。そういうプレッシャーを自分に向けに行ってるようなところもあります。

【インタビュアー】 自分にプレッシャーを向けに行く。そこまでして「納得のいく作品」を残すことが、今のあなたにとって、他の何よりも優先されることなのですね。

【対象者】 ……そうしないと、高い学費払って、借金（奨学金）してまでこの学校にいる意味がなくなっちゃう気がするんで。「旅行」って言うとキラキラして聞こえますけど、僕にとっては、今の自分がこの道でやっていけるかどうかを確認するための、ちょっとした「試験」みたいなものかもしれません。

【インタビュアー】 普段の休日でも写真を撮ってSNSにアップされているとのことですが、今回の合宿で撮る写真もSNSにアップする予定ですか？

【対象者】 ……あー、そうですね。でも、普段の近所で撮ったやつとは、ちょっと「載せ方」を変えたいと思います。普段のは、なんて言うか……生存確認じゃないですけど、「今日も撮ったわ」くらいの軽い感じでインスタのストーリーとかに流すんですけど。今回の岐阜のやつは、ちゃんと現像して、納得がいったものだけを自分のプロフィール……ポートフォリオ代わりにアカウントに並べたいなって。

【インタビュアー】 「生存確認」としての投稿と、ポートフォリオとしての投稿を使い分けているんですね。ポートフォリオとして並べることには、何かこだわりがあるのでしょうか。

【対象者】 さっきの「自分への証明」に近いんですけど、結局、今の時代、SNS でどう見られるかって、この業界を目指す上では無視できないじゃないですか。「こういう写真が撮れるやつなんだ」って、同世代のやつらとか、あわよくば業界の人に見られたいっていう欲はあります。逆に言えば、岐阜まで行って、高い金払って、大層な機材持って……それで「しょぼい写真」しか載せられないのは、自分的に一番ダサいなって。

【インタビュアー】 SNS が、単なる思い出の共有ではなく、ご自身の「評価」を問う場所になっているんですね。そうすると、投稿した後の反応、例えば「いいね」やコメントの数などは、どのくらい気にされますか？

【対象者】 ……正直、かなり気になります（苦笑）。スマホをずっと見ちゃうし、「いいね」が伸びないと「あ、これ外したかな」とか「自分のセンスってズレてんのかな」って、結構凹みますね。でも、単に「いいね」が多ければいいっていうよりは、自分が「これだ」って思うカットに、同じような境界のやつから反応が来ると、「よっしゃ」って思います。だから、今回の旅行も、帰ってきてからSNS に上げるまでが、自分の中では一つの「仕事」というか……完了しない感じがします。

【インタビュアー】 SNS にアップして反応を得るまでが、旅行というプロジェクトの一環なのですね。ありがとうございます。

### 3. 旅行に対する意識・旅行の意味づけ

【インタビュアー】 ありがとうございます。では最後のパートとして、これからの旅行に対する考え方や、今のあなたにとっての「旅行」そのものの意味について伺っていきたいと思います。まず、今は撮影合宿がメインとのことですが、今後「やってみたい旅行」として何か思い浮かぶものはありますか？

【対象者】 やってみたい旅行……。そうですね、今は余裕がないですけど、いつか北海道を1ヶ月くらいかけて、車で一周しながら撮り歩きたいっていうのはありますね。今は2泊3日が限界ですけど、時間を気にせずに、その場所の「一番いい光」が来るまで何日も粘るような旅ができれば最高だな、とは思っています。

【インタビュアー】 時間を気にせず、光を待つ旅、いいですね。少し具体的なキーワードでお聞きしたいのですが、例えば「青春18きっぷ」のような、時間をかけて安く移動する旅や、あるいは最近増えている「デジタル旅行」……YouTubeで4Kの絶景を見たり、没入型の疑似体験をしたりすることについては、どう感じられますか？

【対象者】 18きっぷは……正直、今の自分には「移動」に時間をかけすぎるのは効率が悪いかなって。さっき言ったみたいに機材も重いし。安さは魅力ですけど、それならレンタカー割り勘の方が撮影効

率がいい気がします。デジタル旅行については、あれは「旅行」とは別物ですよ。僕もYouTubeでロケハンのために現地の映像を見たりしますが、それはあくまで「下調べ」というか。その場の空気とか、レンズを通した時の感覚って、やっぱり現地に行かないと絶対に分からないので。見るだけで満足、とはならないです。

【インタビューアー】 あくまで実体験の「下調べ」であって、代わりにはならないということですね。では、改めてお聞きします。今のご自身にとって、「旅行」とは一言で言うとどのようなもの、あるいはどのような時間だと言えますか。

【対象者】 ……「査定」ですかね。

【インタビューアー】 「査定」、ですか。その言葉をもう少し詳しく教えていただけますか？

【対象者】 自分の「今」が試される場所、というか。日々のバイトで貯めたお金と、削った生活費を全部突っ込んで、自分がどれだけの結果……納得いくカットを撮れるか。ただのレジャーじゃなくて、今の自分が持っている技術とか、感性とか、そういうものがどれくらい通用するのかを確かめに行く、厳しい場所っていう感覚があります。

【インタビューアー】 自分を試しに行く、厳しい場所。非常にストイックな位置づけですね。これから先、物価の上昇や奨学金の返済など、経済的な制約はよりリアルになっていくと思います。その中で、あなたの「旅行」はどうなっていくと思いますか。ご自身の「こうしたい」という理想と、現実はどうなっていくのでしょうか。

【対象者】 理想は、さっき言ったみたいに期間を延ばしたり、海外の古い街並みを撮りに行ったりしたいです。でも現実……もっと「一点集中」になっていく気がします。あちこち行くのは無理だから、「ここぞ」という一箇所に絞って、そのために半年バイトする、みたいな。回数は減っても、一回の重みが増していくというか。

【インタビューアー】 「一点集中」で一回の重みが増していく。その予測に対して、ご自身ではどう感じていますか。

【対象者】 ……ぶっちゃけ、しんどいなとは思いますが。奨学金の返済が始まれば、今より自由が利かなくなるのは分かってるんで。でも、だからこそ「なんとなく行く旅行」は自分の人生から消えるんだろうな、とも思います。

【インタビューアー】 消えていくものがある一方で、これほどの制約の中でも「これだけは譲れない」「これだけはやりたい」と思うことはありますか？

【対象者】 「自分の目で見ること」ですね。SNSで誰かが撮った綺麗な写真を見るのは簡単ですけど、自分はその場所の空気を吸って、重い機材担いで、自分のシャッターで切り取る。その「手触り」だけは、どんなに金がなくても、生活が苦しくても、捨てたくないです。それがなくなったら、僕がこの道を目指している意味がなくなっちゃうので。

【インタビューアー】 ありがとうございます。今のあなたにとって、撮影がどれほど切実なものか伝わってきました。ただ、少し視点を変えてお聞きしたいのですが、例えば「撮影を目的としない、ただリラックスするための旅行」というのは、今のあなたの選択肢として浮かぶことは全くないのでしょうか？

【対象者】 ……そうですね。正直に言うと、今は全く浮かばないです。もし誰かに誘われて、ただ温泉入って美味しいもの食べて……っていう旅行に行っただとしても、多分ずっと「あ、あその光いい

な」とか「今の空の色、撮りたかったな」って考えてソワソワしちゃうと思うんですよね。カメラを持たずに風景を見るのが、なんだか「もったいない」というか……損してる気分になっちゃうんです。

【インタビュアー】 「もったいない」「損してる気分」ですか。それは、どういう感覚に近いんでしょうか。

【対象者】 なんて言うか……さっきも言いましたが、僕には奨学金っていう借金があって、将来への不安も常にあるわけです。そんな中で、ただ消費するだけの旅行に何万も払うのは、自分の中で「罪悪感」がすごいんですよ。「こんなことしてる暇があったら、一本でも多く動画作れよ」とか「一枚でもいい写真撮れよ」って、自分の中のもう一人の自分が言ってくる感じ。何かしらの「成果」が残る旅じゃないと、お金を払うのが怖いんです。

【インタビュアー】 ご自身の中にある罪悪感や怖さを払拭するために、撮影という「成果」が必要なんですね。では、例えば将来、奨学金を返し終えて、仕事も安定したとしたら、その時は「撮影のない旅行」を楽しめるようになると思いますか？

【対象者】 ……どうでしょうね。そうなってたらいいなとは思いますが。でも、多分その頃には、もっと「プロとしての結果」を求められるようになってるだろうから……。結局、僕にとっての旅行は、一生「素材を探しに行くこと」と切り離せないのかもしれませんが。純粹に「楽しむ」だけの旅行ができる人たちが、時々ちょっと羨ましくなることもありますけど……今の僕には、その余裕はないですね。

【インタビュアー】 本日は、今の生活のことや旅行に対するお考えを詳しくお聞かせいただき、本当にありがとうございました。お話しいただいた内容はすべて貴重なご意見として参考にさせていただきます。